

小学生・幼稚園児にミヤマアカネに親しんでもらうための活動 「あかねちゃんとその仲間を知ろう」

辰巳淳子・浅倉景子・河田真紀・清水知子・清水 円・玉村佳子・辰巳 葵
(ミヤマアカネ生態研究会「あかねちゃんクラブ」)

新たな試み

ミヤマアカネは、兵庫県レッドデータブックにも掲載されている赤トンボで、逆瀬川周辺には大変多く生息しています。私達は7年前からこのミヤマアカネの生態を調査しており、仁川・逆瀬川周辺を主な調査フィールドに、「マーキング」をしています。

そしてこの生態調査以外に、学校や周辺地域に対してミヤマアカネを知ってもらうことで周辺の環境に目を向けてもらうための活動もしています。具体的には、宝塚市立西山小学校における「ミヤマアカネリサーチプロジェクト」・高齢者向けの「マーキング調査体験」に対する支援は毎年続けています。

昨年度からは小学校で「トンボのあかちゃん ヤゴ を知ろう」という講義も始め、本年度は前述の西山小と宝塚市立丸橋小の2校で、実際のヤゴに触れながら、ヤゴの生態の話をしました。丸橋小の周辺はあまりトンボが生息しない環境にあるので興味を持ってもらえるか心配でしたが、その後ヤゴから羽化させたりという学習に発展したそうです。

そして最も大規模な活動は、近隣小学校・幼稚園・住民が参加し、8年続いている「みやまあかね祭」があります。特に本年度は、祭の会場が「宝塚市立西山幼稚園」となったことをきっかけに、幼稚園児にもっと分かりやすくミヤマアカネを身近に感じてもらうための新たな企画をメンバーと考えることになり、それが、紙芝居「逆瀬川のあかねちゃん」です。

紙芝居のねらい

幼稚園児にとっては、まず「ミヤマアカネというトンボが逆瀬川には育っているよ。」
ということ伝えることをテーマに

- ・ とんぼは卵からヤゴ・羽化・成虫と大きな変化をする昆虫である。
- ・ 川の生き物・地上の生き物両方に関わっている昆虫である。
- ・ 逆瀬川にはいろいろな生物がいる。

を表現できるようなストーリーと作図表現を心がけました。

子どもの反応と祭で披露した効果

いよいよ、「みやまあかね祭」で披露することになりましたが、たった12場面の短いストーリーであったためか、大変熱心に見てくれたという印象が強いです。

実は祭ではまず、実際に逆瀬川でミヤマアカネを捕まえてきて、その後に紙芝居を見るという流れだったのですが、実体験の後すぐにミヤマアカネはこんな風に育っているんだということを紙芝居で伝えられたのが大変効果的だったと思う。また、保護者・先生方の反応も大変良かった。

今後の取組み

紙芝居というのは、構成しただけでは難しいことを簡単に伝えたり、大変興味をもってもらうには効果的な方法であると感じました。私達の主活動の調査で得られた大変面白い結果がいくつかあります。しかしそれをみんなに伝えることは難しいです。今後はそれらの結果を伝える手段として紙芝居は有効でツールです。今後も積極的に取り入れていけたらと思います。

紙芝居第2弾、第3弾乞うご期待！



あかねちゃん
「よし、いっぱい食べて
魚さんよりおおきくなるぞ。」
あかねちゃんは
水の中で 何回も皮をぬぎ
おおきくなっていきました。



逆瀬川で 小さな たまごから
ヤゴが産まれました。
名前は あかねちゃん。



チョウさん
「見て！ わたしは
お空を自由にとべるのよ！」
チョウさんが おおきなはねをひろげて
とぶすがたは とてもステキです。



オイカワ君
「ぼくのにし色 きれいだろ」
オイカワ君が 川の中で クルリと
ターンして見せます。
ドンコ君
「おまえみたいな チビは そのうちオレ達
魚に食べられてしまうのさ。」
ドンコ君が いじわるく わらいます。
あかねちゃんは 悲しくなりました。



あかねちゃん
「ぼくにも チョウのように 空が
とべるはねが あつたらいいなあ！」
そうねがったあかねちゃんのはねは
すこしづつ長く りっぱになって
いきました。



あかねちゃん
「そうか！ 水の中をでれば 魚さんに
食べられないし チョウさんのように
自由に空をとべるかもしれない。」



あかねちゃんは うつくしい
ミヤマアカネ になったのです。



夏
あかねちゃんは 思いきって
水草をのぼりはじめました。



あかねちゃん
「やったー 空をとべるぞ！」
こうして あかねちゃんは
逆瀬川で たくさんのなかまと
楽しく すごしています。



夜
あかねちゃん
「なんだか せなかが むずむずするぞ。」
あかねちゃんの せなかがわれて
白いからだ が あらわれました。」

